

## 第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

### 2. 農業の持続的な発展に関する施策

#### （6）需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化

#### ③ 米政策改革の着実な推進と水田における高収益作物等への転換

##### ア 消費者・実需者の需要に応じた多様な米の安定供給

国内の米の消費の減少が今後とも見込まれる中、水田活用の直接支払交付金による支援等も活用し水田のフル活用を図るとともに、米政策改革を定着させ、国からの情報提供等も踏まえつつ、生産者や集荷業者・団体が行う需要に応じた生産・販売を着実に推進する。

米の生産については、農地の集積・集約化による分散錯圃の解消や作付の連坦化・団地化、多収品種の導入やスマート農業技術等による省力栽培技術の普及、資材費の低減等による生産コストの低減等を推進し、生産性向上を図る。

また、主食用米については、事前契約・複数年契約などによる安定取引が主流となるよう、その比率を高めながら質を向上させるとともに、中食・外食事業者の仕入状況に関する動向等の情報提供を行うことにより、実需と結びついた生産・販売を一層推進する。

加えて、米飯学校給食の推進・定着や米の機能性など「米と健康」に着目した情報発信、企業と連携した消費拡大運動の継続的展開などを通じて、米消費が多く見込まれる消費者層やインバウンドを含む新たな需要の取り込みを進めることで、米の1人当たり消費量の減少傾向に歯止めをかける。また、拡大する中食・外食等の需要に対応した生産を推進する。

さらに、国内の主食用米の需要が減少する中、「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」を通じ、日本産コメ・コメ加工品の新たな海外需要の拡大を図るため、産地や輸出事業者と連携して戦略的なプロモーション等を行うとともに、高まる海外ニーズや規制の情報、輸出事例等について産地やメーカー、加工・流通サイドへの情報提供を行い、海外市場の求める品質や数量等に対応できる産地の育成等を推進する。

##### イ 麦・大豆

麦については、国産麦の購入希望数量が販売予定数量を上回っている状況にあり、大豆についても、健康志向の高まりにより需要が堅調に伸びている。湿害、連作障害、規模拡大による労働負担の増加、気象条件の変化等の低単収要因を克服し、実需の求める量・品質・価格の安定を実現して更なる需要の拡大を図る必要がある。

このため、「麦・大豆増産プロジェクト」を設置し、実需者の求める量・品質・価格に着実に応えるため食品産業との連携強化を図るとともに、作付の連坦化・団地化やスマート農業による生産性向上等を通じたコストの低減、基盤整備による水田の汎用化、排水対策の更なる強化、耐病性・加工適性等に優れた新品種の開発・導入、収量向上に資する土づくり、農家自らがスマートフォン等で低単収要因を分析してほ場に合わせた単収改善に取り組むことができるソフトの普及等を推進する。

##### ウ 高収益作物への転換

国のみならず地方公共団体等の関係部局が連携し、水田の畑地化・汎用化のための基盤整備、栽培技術や機械・施設の導入、販路確保等の取組を計画的かつ一体的に推進する。これにより、野菜や果樹等の高収益作物への転換を図り、輸入品が一定の割合を占めている加工・業務用野菜の国産シェアを奪還するとともに、青果物の更なる輸出拡大を図る。

##### エ 米粉用米・飼料用米

米粉用米については、ノングルテン米粉第三者認証制度や米粉の用途別基準の活用、ピューレ等の新たな米粉製品の開発・普及により国内需要が高まっており、引き続き需要拡大を推進するとともに、加工コストの低減や海外のグルテンフリー市場に向けて輸出拡大を図っていく。また、実需者の求める安定的な供給に応えるため、生産と実需の複数年契約による長期安定的な取引の拡大等を推進する。

飼料用米については、地域に応じた省力・多収栽培技術の確立・普及を通じた生産コストの低減を実現するとともに、バラ出荷等による流通コストの低減、耕畜連携の推進、飼料用米を給餌した畜産物のブランド化に取り組む。また、近年の飼料用米の作付けの動向を踏まえ、実需者である飼料業界等が求める米需要に応えられるよう、生産拡大を進めることとし、生産と実需の複数年契約による長期安定的な取引の拡大等を推進する。

##### オ 米・麦・大豆等の流通

米・麦・大豆等生産者と消費者双方がメリットを享受し、効率的・安定的に消費者まで届ける流通構造を確立するため、「農業競争力強化支援法」（平成29年法律第35号）及び「農業競争力強化プログラム」（平成28年11月農林水産業・地域の活力創造本部決定）に基づき、米卸売業者などの中間流通の抜本的な合理化を推進するとともに、統一規格の輸送資材や関連機材の導入、複数事業者や他品目との配送の共同化等による物流効率化を推進する。

# 「米に関するマンスリーレポート」による情報提供

- 各産地において、翌年産の主食用米等の作付を的確に判断できるよう、「米に関するマンスリーレポート」を毎月発行。
- 産地別の需給・価格・販売進捗・在庫等の基本的な情報の提供に加えて、事前契約の状況や中食・外食事業者の仕入状況等の動向を調査・公表。



## 「米に関するマンスリーレポート」目次

### ■ 特集記事

- 1 米の民間在庫情報
- 2 米の価格情報
- 3 米の契約・販売情報
- 4 消費の動向
- 5 輸出入の動向
- 6 主食用米以外の情報

※ 別冊の資料編には、より詳細なデータや過去の実績を掲載しているほか、麦・大豆などの価格情報についても掲載。

## 1 米の民間在庫情報

### ○ 産地別民間在庫量の推移

各産地別、出荷・販売段階別の在庫量を毎月調査・公表

産地	4年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年	
							7月	8月
出荷・販売段階	150.7	125.1	196.5	314.0	331.4	341.9	150.7	125.1
4年産米	0.0	0.0	0.0	232.8	263.6	285.5	0.0	0.0
18年産米	130.7	107.3	173.4	69.2	57.4	47.8	130.7	107.3
出荷段階	134.6	105.1	173.4	265.5	282.3	283.2	134.6	105.1
4年産米	0.0	0.0	0.0	92.1	199.2	225.5	0.0	0.0
18年産米	118.2	89.9	67.9	56.2	47.8	39.0	118.2	89.9
販売段階	24.1	20.0	25.1	48.5	49.1	58.6	24.1	20.0
4年産米	0.0	0.0	0.0	11.9	33.7	38.1	0.0	0.0
18年産米	20.9	17.4	11.1	13.1	9.5	8.8	20.9	17.4

## 2 米の価格情報

### ○ 相対取引価格・数量

全国18産地品種銘柄の相対取引価格・数量を毎月調査・公表

産地	品種銘柄	4年産米 令和5年1月		前年同月		前年同月		数量		数量	
		価格	数量	価格	数量	価格	数量	数量	数量		
北海道	ななつぼし	14,164	11,790	13,785	100%	110%	12,824	13,778	12,687	100%	
北海道	ゆめぴりか	16,000	8,804	15,852	99%	97%	16,066	15,773	15,451	102%	
北海道	ゆめろこ	13,795	740	13,721	100%	112%	12,215	13,803	11,955	114%	
関東	ひとめぼれ	12,776	24,602	12,592	100%	112%	11,288	12,719	10,770	119%	
関東	つがるの夢	18,010	8,120	17,882	100%	123%	11,215	13,102	11,215	119%	

※ 価格については、相対取引価格のほか、小売価格（POSデータ）やスポット取引価格などを掲載

## 3 米の契約・販売情報

### ○ 産地別契約・販売状況

各産地及び全国118産地品種銘柄の集荷・契約・販売状況を毎月調査・公表

産地	作況 指数	集荷・契約・販売数量（北海道から静岡まで）			（単位：千玄米トン）		
		集荷数量 (1)	契約数量 (2)	販売数量 (3)	集荷数量	契約数量	販売数量
北海道	106	287.8	208.2	83.0	85%	89%	100%
ななつぼし		134.5	110.8	42.8	81%	93%	104%
ゆめぴりか		90.8	51.3	19.6	102%	84%	105%
ゆめろこ		20.9	15.8	2.4	93%	95%	75%
関東	99	101.2	73.3	15.0	87%	90%	79%
ひとめぼれ		76.0	53.8	7.5	83%	93%	66%
つがるの夢		12.4	8.9	2.8	87%	89%	75%

## 4 消費の動向

### ○ 仕向先別の販売価格・数量

米の販売事業者に対し、小売・中食・外食事業者等別の精米の販売数量・価格の動向を毎月調査・公表  
販売数量の動向（対前年比）  
販売価格の動向（前年同月比）

仕向先	4年 1月	2月	3月	販売価格の動向（前年同月比）		
				1月	2月	3月
小売事業者向け （※令和元年との比較）	97% (105%)	95% (102%)	99% (103%)	101%	101%	100%
中食・外食事業者等向け （※令和元年との比較）	105% (90%)	101% (88%)	101% (92%)	101%	98%	98%
販売数量計 （※令和元年との比較）	101% (97%)	98% (95%)	100% (98%)			

## 5 輸出入の動向

### ○ コメ・コメ加工品の輸出実績の推移

コメ・コメ加工品の品目別、国別の輸出数量・金額を毎月公表

品目	2020年		2021年		2022年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
精米	19,781	3,319	22,833	3,933	28,224	7,382
中食・外食向け	6,576	1,756	5,938	2,118	5,890	2,944
小売向け	3,696	783	4,972	1,025	5,742	1,201
アメリカ	1,500	560	2,244	826	4,450	1,569

## 6 主食用米以外の情報

### ○ 加工用米及び新規需要米等の生産状況

加工用米の生産量、新規需要米の用途別作付・生産状況の推移を公表

用途	2022年		2021年		2020年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
精米	128,877	428,044	130,000	437,736	128,000	428,044
中食・外食向け	19,533	66,607	18,000	60,000	17,000	56,000
小売向け	204,104	71,551	215,554	101,576	174,070	60,000

# 令和6年産米の需要に応じた生産・販売の推進状況 (令和5年9月1日から令和6年2月22日まで)

- 昨年11月以降、全国会議を開催し、直近の需給環境や予算事業等について説明。
- また、産地ごとの意見交換（キャラバン）を個別に実施しており、今後も生産者団体や地方自治体とも連携しながら、県農業再生協議会やJA以外の幅広い集荷業者等に対してもキャラバンを実施。

## 全国会議（web会議）

- ① R5. 11. 13 （参加者約800名）
- ② R5. 12. 26 （参加者約840名）

## 産地ごとの意見交換（キャラバン）

### 【本省対応】

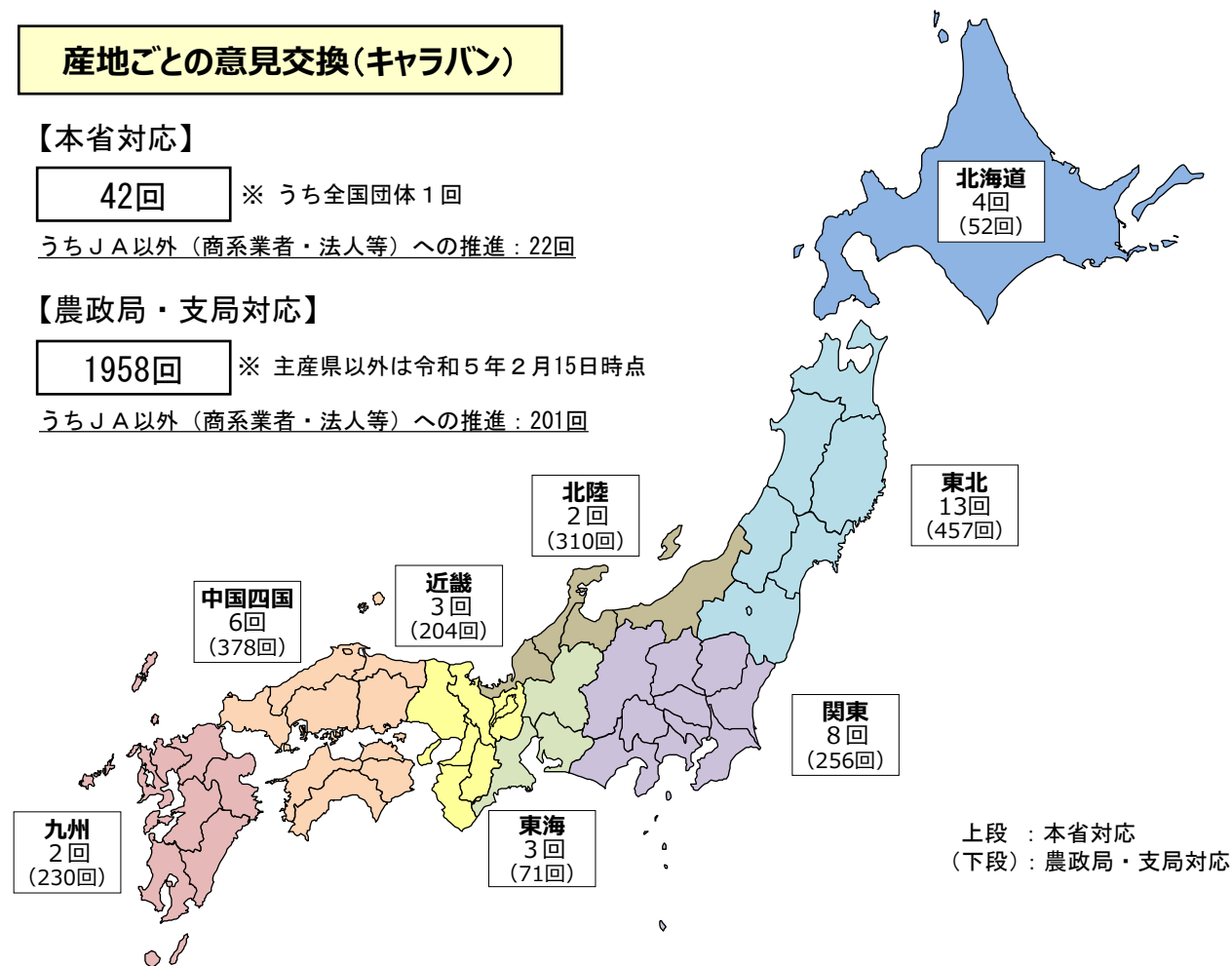
**42回** ※ うち全国団体1回

うちJA以外（商系業者・法人等）への推進：22回

### 【農政局・支局対応】

**1958回** ※ 主産県以外は令和5年2月15日時点

うちJA以外（商系業者・法人等）への推進：201回



# 主食用米の事前契約（播種前契約）の状況

- 5年産の仕入計画数量に占める播種前契約（複数年契約を含む）の割合は32%。
- 5年産の仕入計画数量に占める実需者と結びついた播種前契約の割合は4%。

## ○ 播種前契約の状況

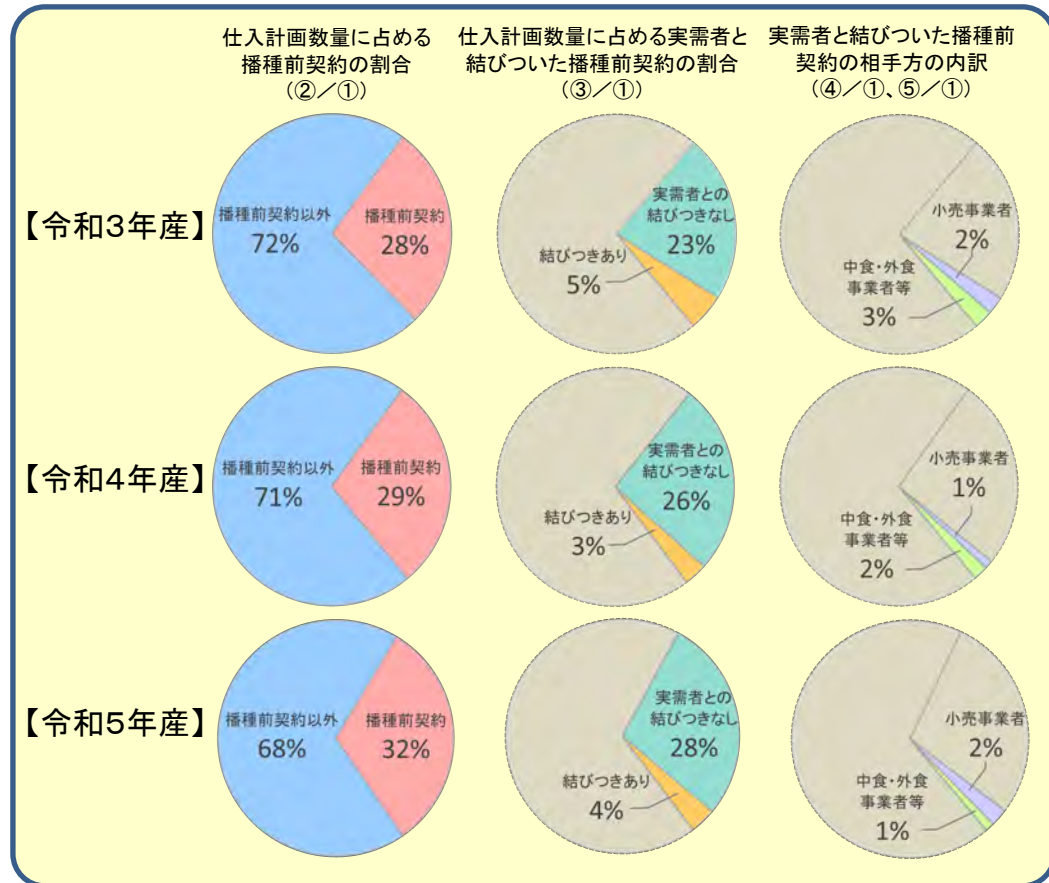
(単位:千トン)

年産	仕入計画数量 ①	播種前契約数量 ②	うち実需者との結びつき		
			計 ③	中食・外食等 ④	小売 ⑤
3年産	3,699	1,026 (28%)	184 (5%)	95 (3%)	89 (2%)
4年産	3,451	1,001 (29%)	108 (3%)	69 (2%)	40 (1%)
5年産	3,504	1,115 (32%)	127 (4%)	42 (1%)	85 (2%)

## ○ 播種前契約の履行状況

令和4年産の播種前契約数量に占める販売数量（令和5年3月時点）の割合は97%

## ○ 播種前契約の比率



注1：調査対象は、年間取扱数量500トン以上の集出荷業者。

注2：仕入計画数量は、卸売業者や小売事業者等へ独自に販売を行う米穀の生産年の3月末時点の仕入(集荷)計画数量(見込含む)として調査。

注3：播種前契約数量は、生産年の3月末までに締結した事前契約(確認書等により販売数量が決定しているもの)の数量をいう。

注4：中食・外食等には、小売以外の実需者(学校給食や事業所給食など)との契約を含む。

注5：各値は速報値である。

注6：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

# 需要に応じた販売について（低価格帯の需要への生産・販売の拡大）

## 【買い手の意向と産地の意向のミスマッチ】

用途に応じた米  
生産が重要！

### 買い手の意向

一般家庭用  
(高価格帯中心)  
70%程度

中食・外食向け  
(低価格帯中心)  
30%程度

少しでも単価の高  
い米を売りたい！

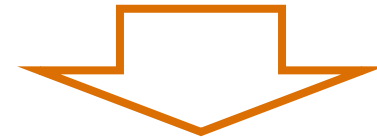
### 産地の意向

一般家庭用

需要に応じた  
生産・販売へ

中食・外食向け

- 主食用米全体の需給は均衡している中、産地においては高価格帯中心の一般家庭用の米を生産する意向が強い。
- 一方、買い手においては、3割を占める低価格帯中心の中食・外食向けなどにも対応した米生産へのニーズがありここにミスマッチが生じている状況。



- 一般家庭用、中食・外食向け各々の需要に応じた生産・販売の取組を進める必要。
- （それを行わない場合には、結局、国内主食用米需要全体の一層の減少につながる。）

－取組事例（A市B生産法人）－

- ・ A市はブランド米の産地であるが、B生産法人は中食・外食事業者からのニーズを受け、28年産から多収品種（あきだわら）の作付を開始。
- ・ 一般家庭用より3割多収を実現し、一般家庭用で得られる収入とほぼ同等の収入を確保。

# 中食・外食向け販売量の状況について①（中食・外食向け販売実態調査結果）

○ 産地における中食・外食向けの需要に応じた生産・販売への取組を促すため、産地や銘柄ごとの中食・外食向けの販売割合順位等をマンスリーレポートで公表。

〔 令和3年7月から4年6月までの1年間において、年間玄米取扱量4,000トン以上の販売事業者が、精米販売を行った数量のうち、中食・外食向けに販売した数量について調査を実施。 〕

## 販売先割合の推移（全国）

	30/元年	元/2年	2/3年	3/4年
中食・外食向け	38%	37%	37%	39%
家庭内食向け等	62%	63%	63%	61%

注：家庭内食向け等は、精米販売量全体から中食・外食向け販売量を差し引いたものである。

## 中食・外食向けの販売割合が高い上位10県

30/元年		元/2年		2/3年		3/4年	
1	福島 65%	1	群馬 67%	1	群馬 75%	1	群馬 79%
2	栃木 65%	2	岡山 65%	2	福島 68%	2	福島 69%
3	群馬 62%	3	福島 64%	3	栃木 58%	3	栃木 65%
4	岡山 60%	4	栃木 61%	4	岡山 57%	4	岡山 62%
5	山口 57%	5	山口 56%	5	愛知 53%	5	山形 50%
6	宮城 53%	6	熊本 53%	6	青森 50%	6	宮城 50%
7	熊本 53%	7	宮城 48%	7	山口 49%	7	埼玉 50%
8	山形 49%	8	青森 48%	8	岐阜 47%	8	青森 49%
9	青森 47%	9	山形 46%	9	宮城 47%	9	岐阜 48%
10	鳥取 44%	10	岩手 44%	10	山形 44%	10	岩手 45%

注：中食・外食向け販売量が、1,000ト未満の都府県は除いている。

## 中食・外食向け販売量全体に占める産地品種銘柄別割合（上位20）

30/元年			元/2年			2/3年			3/4年		
順位	産地	品種銘柄 割合	順位	産地	品種銘柄 割合	順位	産地	品種銘柄 割合	順位	産地	品種銘柄 割合
1	宮城	ひとめぼれ 7%	1	宮城	ひとめぼれ 6%	1	山形	はえぬき 7%	1	宮城	ひとめぼれ 7%
2	栃木	コシヒカリ 6%	2	栃木	コシヒカリ 6%	2	宮城	ひとめぼれ 6%	2	山形	はえぬき 7%
3	山形	はえぬき 6%	3	山形	はえぬき 5%	3	青森	まつぐら 5%	3	青森	まつぐら 5%
4	福島	コシヒカリ 5%	4	福島	コシヒカリ 5%	4	福島	コシヒカリ 5%	4	栃木	コシヒカリ 5%
5	青森	まつぐら 4%	5	青森	まつぐら 4%	5	栃木	コシヒカリ 5%	5	北海道	ななつぼし 5%
6	北海道	ななつぼし 4%	6	北海道	ななつぼし 4%	6	岩手	ひとめぼれ 4%	6	福島	コシヒカリ 5%
7	岩手	ひとめぼれ 3%	7	岩手	ひとめぼれ 4%	7	北海道	ななつぼし 4%	7	岩手	ひとめぼれ 4%
8	茨城	コシヒカリ 3%	8	新潟	コシヒカリ 3%	8	新潟	コシヒカリ 3%	8	新潟	コシヒカリ 4%
9	新潟	コシヒカリ 3%	9	茨城	コシヒカリ 3%	9	茨城	コシヒカリ 3%	9	茨城	コシヒカリ 3%
10	福島	ひとめぼれ 2%	10	北海道	ゆめぴりか 2%	10	秋田	あきたこまち 3%	10	秋田	あきたこまち 2%
11	北海道	ゆめぴりか 2%	11	福島	ひとめぼれ 2%	11	福島	ひとめぼれ 2%	11	北海道	ゆめぴりか 2%
12	秋田	あきたこまち 2%	12	秋田	あきたこまち 2%	12	北海道	ゆめぴりか 2%	12	新潟	こしいぶき 2%
13	長野	コシヒカリ 2%	13	長野	コシヒカリ 2%	13	長野	コシヒカリ 2%	13	福島	ひとめぼれ 2%
14	栃木	あさひの夢 2%	14	富山	コシヒカリ 1%	14	新潟	こしいぶき 1%	14	北海道	きらら397 2%
15	富山	コシヒカリ 1%	15	北海道	きらら397 1%	15	富山	コシヒカリ 1%	15	富山	コシヒカリ 2%
16	千葉	コシヒカリ 1%	16	栃木	あさひの夢 1%	16	北海道	きらら397 1%	16	栃木	とちぎの星 1%
17	北海道	きらら397 1%	17	新潟	こしいぶき 1%	17	福島	天のつば 1%	17	長野	コシヒカリ 1%
18	青森	つがるロマン 1%	18	千葉	コシヒカリ 1%	18	栃木	あさひの夢 1%	18	福島	天のつば 1%
19	新潟	こしいぶき 1%	19	青森	つがるロマン 1%	19	愛知	あいちのかおり 1%	19	千葉	ふさこがね 1%
20	千葉	ふさこがね 1%	20	福島	天のつば 1%	20	青森	つがるロマン 1%	20	栃木	あさひの夢 1%

注：割合は、各産地品種銘柄ごとの中食・外食向け販売量を、全国の中食・外食向け販売量で除したものである。

<当データを見る上での留意事項>

- ▶ 販売事業者が、中食・外食向けに精米販売した数量であり、小売店等に精米販売し、その後、中食・外食に仕向けられたものは含まれていない。
- ▶ 中食事業者は、コンビニストア、スーパー、弁当屋、給食事業等であり、外食事業者は、牛丼、回転寿司等のファーストフード店、ファミリーレストラン、ホテル等宿泊施設等である。
- ▶ 中食・外食向けには、主に米販売業者から供給されるが、家庭内食向けには、米販売業者経由の他に農家直売や縁故米等からも供給されるため、米販売業者からの供給量のみで作成した当データは、中食・外食向けの割合が高く出る傾向がある。